

研究授業：小学部3・4年（すみれ組）

生活単元学習「みんなでつくろう！すみれクリスマスパーティ」

## （1）目標設定について

**◇目標の数ではなく、“授業者の思い”や“子どもたちらしさ”が伝わるような目標設定を**

- ・単元の目標は二つ設定し、本時の目標は主体的に活動することの一つに絞った。毎日の活動（飾り作り）をそれぞれが頑張ることで、最後のパーティにつながってほしいと考えた。（T）
- ・小学部の生活単元学習では、数の目標（いくつ完成したら終わり）は特別設けなくていい。作ることで自分が「楽しい！」ことが大切。
- ・飾り作りの最終段階であれば、本時の目標にもっと“本時らしさ”を出したほうがいい。
- ・目標にあれもこれも詰め込まない。“焦点化”することが大事。
- ・単元の個人目標があると分かりやすい。

## （2）机の配置・教師の位置（授業づくりの視点④）

**◇もっと主体的に活動できる配置や並び方は・・・？**

- ・つくし組の学部授業研を受けて、すみれ組でも子どもたち同士がお互いの活動を見合える配置、教師にも子どもの表情が分かるような並び方を考えたが、目の届かなかった場面も多々あり課題点も多く残ったと感じている。（T）
- ・今回の授業では、自分で飾ったものをすぐに自分で飾っていた。動きあるほうがいい子ども、活動に打ち込めるほうがいい子ども、それぞれに合った配置がいい。
- ・子どもたち同士の相性や刺激に敏感な子どもがいる場合は、座席を適度に離したり、向きを工夫したりすることも必要。
- ・教師も少し離れることで、教師に頼りすぎずお互い協力したり自分なりに工夫したりする様子も見られるようになってきた。
- ・一人でどんどんできる子どもは自分から教師のところへ移動するようにすることで、教師と一緒に活動する子どもにはもっとしっかりつくことができる。グルーピングやT・Tの工夫でもっと主体的に活動することができる！
- ・支援が必要だからそばにいるということから、一緒に作りたいたからそばにいるという発想へ。

## （3）一体感（授業づくりの視点⑤）

**◇各学部・学級でも大事にしています！**

- ・単元名にも“みんなで一つのことに向かっていこう”という思いを込めた。（T）
- ・高等部の作業では、一人一人に役割や担当があって、一人でも欠けると製品が完成しない。
- ・活動に存分に取り組めることが一人一人の目標になっていて、一体感につながっていた？
- ・一体感という言葉を理解している子どもは少ないかもしれないが、同じ場所で、一緒に活動していくことで“みんなで”とか“協力する”ことにつながっていくのでは。

## 授業者から

- ・授業を見てたくさんの付せんをいただきました。授業研究会では「子どもたちが工夫する余地のある授業だった」という講評をいただきましたが、授業自体ももっと工夫する余地がありました。たくさんのご意見ありがとうございました。